

唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 第5回策定推進委員会 会議録(要旨)

○開催日時

令和6年2月2日(金) 午後2時00分～午後3時40分

○開催場所

唐津市役所大会議室(本庁4階)

○出席委員

松尾委員(会長) / 佐々木委員 / 安岡委員 / 金嶽委員 / 井田委員 /
内山委員 / 峯委員 / 大木委員 / 中島委員 / 谷口委員 / 松下委員 /
山口(ひろみ)委員 / 中村委員 / 前田委員 / 坂田委員 / ※名簿順

○資料

(資料1) 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画に係るパブリックコメントの実施結果について

(資料2) 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 素案

(事前資料) 地域福祉計画策定に関する中・高校生との座談会

(机上配布) 唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 策定推進委員会委員名簿

○内容(要旨)

<開会>

<資料確認>

<会議成立の確認> 委員17名中15名出席により会議成立となる
以降、会長により進行

<議題>

- (1) (1) パブリックコメントの結果について
資料により事務局より説明

【質疑】

(会長) 事務局説明のとおり意見がなかったことは残念だが、執行部への信頼の証とも考える。各委員から今の報告について意見はあるか?

<特になし>

- (2) 市長と中・高校生との座談会の開催結果について
資料により事務局より説明

(事務局) 座談会でのやりとりは写真とともに計画冒頭に掲載の予定。意見の主な

ものも取り組みの内容に掲載する予定。

【質疑】

- (会 長) この委員会から2名の委員が出席されている。感想などいただけるか。
- (委 員) (山口委員) まずこのような座談会を開催して下さったことに感謝したい。若い人の声は大切だと子育て支援活動のなかで痛感していたので大変ありがたかった。市長との座談会とのことで、最初はみんな緊張していたようだが、少しずつ表情も和らいでいろいろな話も出た。自分の反省としては、もっと子どもたちへの声かけや意見交換ができればよかったと思う。資料のとおり、みな一生懸命に計画を見て意見を書いている。また、みな唐津が大好きだと発言していた。唐津が大好きな若者がいて、その声が聴けたということ自体がとても貴重な機会だった。中高生のアイデアなど聞いていて、将来がとても楽しみになった。計画に挙げている理念が、10年後などにつながっていくと希望を持てた。若い人がこういった計画について知ってくれる、よい機会であったと思う。
- (委 員) (井田委員) 市長がいらっしゃることで私自身も緊張したところはあるが、こういった会が実現したこと、この1年の当委員会での策定経過に加え大変よい機会をいただいたと思う。夏休み中、22回もボランティアに行ったという女子生徒もいた。バスのこと、信号機のこと、道路のこと、バリアフリーのことなどいろいろな意見があった。市長や部長はそれに答えておられたが、自分自身もそれをどう変えていくのか、どう変えようかというところコメントや意見を出せばよかったと思う。このような座談会だけでなく、子どもが意見を出していくことで良いまちになっていく、そのためにどうしようというアドバイスができればよかったと感じた。子ども・子育ての計画、老人福祉の計画、上位に地域福祉計画、こうした各計画が充実してきていると思うので、それが実現できていけば良いまちになると思う。
- (会 長) 福祉は、まちづくりの中心と言えるものである。障がい者、高齢者のことだけでなく、外国人や多角的な視点から子どもたちの意見が出ていたと思う。計画の実施運営にあたっては、担当部署の皆さんはぜひこの座談会から得た子どもの意見などを大事にしてほしい。また、こういった会そのものも、もっと参加の層を広げて今後も継続していただければと思う。このような座談会は残して欲しい。子どもたちの成長にむけて、有用な会であったと思う。子どもたちの意見にも交流が少ないということが多くあった。座談会、交流の場、そういった機会を増やしてほしいと感じた。
- (委 員) 子どもたちは真剣に考えてくれたのだと感じた。市役所でも、まず相談という窓口だけでなく、交流や、年代にあった情報の伝え方が必要だと本当に感じる。生徒も、今回の座談会で市の取組などを知ったと言っている。情報発信の大切さをあらためて感じた。
- (会 長) ぜひ、交流の機会を継続してほしい。

(3) 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画(案)の承認について
資料により事務局より説明

(事務局) パブリックコメント時の素案からの変更点を説明。冊子として製本の際は高齢者や障がい者の作品を掲載したい(絵の候補を回覧)。今後資料編が入るが、本日の資料の策定員会委員名簿は各自で間違いがないかご確認いただきたい。

【質疑】

(会長) 委員の意見はあるか。

(委員) これまで3回(の計画策定で)この委員会に参加した。今回、計画は全体に共助、役割の部分が強調され、公助が減ったと思う。当事者の意見、当事者の目線を、と言いつけてきた。共助に頼ると目線は上から目線になる。当事者の意見を聞いているかという、例えば障がい者のプランは市役所だけで作っていると感じる。障がいの団体や事業所に何も連絡なくプランを作っている。地域福祉計画は個別計画の上になるもの。障がい者の親として思うが、上位の計画は具体策がうすくなり、下位の計画は障がい者の意見も聞かずに計画策定が進み、いつのまにかパブリックコメントとなった。地域福祉計画はこれだけ当事者の意見を聞きながら作ってきた。関係者の意見も聞いている。しかしこれは上位の計画であり、障がい者のプランにどこまで改善点が盛り込めるかが重要なのに、毎回なんの意見聴取もなく計画ができていく。地域福祉計画が上位なのであれば、この先は個別計画で当事者の意見聴取などがしっかり行われているかを見ていくようお願いしたい。各個別計画が良くなって、さらにその上の地域福祉計画が良くなっていくというように、個別計画についても議論をする取組をぜひお願いしたい。

(会長) 毎回貴重な意見を出してくださっていると思って聞いている。議事録に残すだけでなく、障がい者プランの中に今のような意見が反映できるよう事務局と各課でも確認を願いたい。先ほどの、交流、座談会への意見とあわせて、今回の討議のエキスであると思う。他にあるか。

(委員) 小さな規模の交流会でも座談会でも、交流、意見を出し合う機会は大切であり、その中から良い計画が出来上がっていくとよい。

(委員) 先ほどの意見は障がい者だけではなく全体に言えることだ。子どもの座談会でも体を動かすことが大事といった発言があった。こういう意見も含め、体を動かすことなどでもどうすればよいか、市も考えてもらいたい。

(会長) だれでも歳はとる。歳をとれば生活様式は変わるが、それを助ける福祉用具などが多くある。それがあれば歩けなくても行きたいところに行ける、暗い生活にはならない、など、福祉用具のことなど本委員会を通じてもっと広めたいと思い参加したが、なかなか思うようにはいかなかったと思っている。

(委員) この委員会はとても勉強になった。自分は市外から来て障がいの活動をしており、障がい者月間に合わせて市役所でイベントもやらせていただいた。大変盛り上がったと思う。当事者がいきいきと販売などができた。作ったものが目の前で売れるという喜びを得てもらえたようである。子どもとの交流機会を多くもっている委員さんのことがうらやましいくらいで、障がい者についても行政と力を合わせてそういう機会づくりができればと思う。もちろん予算も大事だろう。事業者も協力・交流できる機会をこれからも作っていければと思う。

(会長) 先ほど回覧された、計画に掲載予定の作品だが、特に障がい者の作品と強調しなければいけないということはないと思う。

(会長) 最後に、本日の議題で重要なことを決めたい。この計画に承認をいただけるかどうかである。委員各位、いかがか。挙手いただきたい。

<全員が挙手で承認>

(委員) 承認はしたものの、一言。自助・互助はどの家庭でもやっている。共助もやる場所ではやっている。残るは公助である。相談に行っても「前例がない」などで片付けられてはどうにもならない。計画が出来て、それで終わりにならないようにしてほしい。市内に限界集落は多い。その障がい者、一人暮らし、高齢者は置き去りになりがちで、みな我慢をしている。当人たちは他人に迷惑をかけるのは申し訳ないとすら感じている。どうか、この計画を生かして、市の職員にはもうひと頑張りしてもらいたい。

(委員) この委員会に関わってきて、他市町と比べて決定のプロセスから意見を出し合いながら作られてきたのは素晴らしいと感じる。一方で当事者意見の聞き方や反映は今後も課題として続くと思う。子どもの意見を聞くには、ファシリテーター、コーディネーターの役割が大事で、緊張している子どもが意見を出せるよう、また、ひきこもりの子は意見を出しにくいので、そういった人が引き出していくことが重要、今後強化していくとよいと思う。高校で行われている地域福祉の取組を拝見する機会があった。高校生の活躍、また意見の表明で社会や市が変わるのだという体験・実感を持つことが重要だろう。計画は出来たが、それを実践するのは我々の使命である。実行段階でいかに参画してくれる人を増やすかである。

(事務局) (部長) 事務局を代表してお礼を申し上げたい。委員の皆様には長期間のご審議ありがとうございました。この計画は地域共生社会を目指す、その理念、仕組みを作る計画である。今回決まった理念の冒頭には「すべての市民」がという言葉が来るものと考えている。今回の策定では、福祉を考える会での課題の掘り起こしや、子どもの意見を聞くといった新しい取組も行った。今後も子どもたちの意見を聞く場を設けていきたい。先ほどご覧いただいた障がい者や高齢者の作品展の絵を今回の計画の中にに入れていき

たいと考えている。表紙の絵は、明るい唐津の福祉の未来を感じるような、明るい雰囲気のカラフルな絵を使いたいと考えている。地域福祉計画は福祉の上位計画、マスタープランであるが、障がい、子ども、高齢者、健康など、下位の計画でも当事者の意見を伺いながら変えるべきところは変えていきたい。これで終わりではなく、取組は令和6年度からスタートであり、市はその実行責任を負っているものと考えている。実行にあたっては、今後も委員各位のアドバイスなどいただければありがたい。

<休憩>

3 第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）の市長への提案

<会長より素案の提出>

<副市長より委員会への御礼>

<社会福祉協議会（事務局長）より委員会への御礼>

4 会長あいさつ

（会 長）自分は微力ではあったが、皆様のおかげで計画案の提出ができた。これからは大事である。計画に掲載された令和22年の人口推計を見ると3万人の減少、衝撃的な数字である。各委員には今後ともご協力を願いたい。事務局・職員の方は、市民の皆さんにこの厳しい現状も理解してもらえるよう努力をしつつ、計画を推進してもらいたい。唐津はよい町である。唐津城のバリアフリーも感心する。どうぞこのような良いところをもっともっと伸ばして、住みやすいまちにしてもらえればと思う。

5 その他

<特になし>

以上